

や

やるぞ～

ま

まけないぞ～

が

がんばろうぜ～

た

楽しい学校になるように

「おんぶ」と「だっこ」どっちがいい？

本日で令和3年の授業日は最後です。そして令和3年は残り一週間となりました。

今年も様々なことがありました。先月は、燕市の中学生が校舎から転落した出来事をふまえて、命の大切さやいじめのない学校に向けて話をしました。その後も、私たちと同じ中学校現場で、ナイフで友だちを死なせてしまうような残念でやるせない事件もありました。来年度はどのような一年になるのでしょうか。だれもが不幸になるようなことがない、明るい一年になることを祈るばかりです。

さて、3年生を対象に、先月末には思春期講演会、先日は家庭科の保育実習がありました。私たちの生きる社会は、「ゆりかごから墓場まで」と言われます。学校での、介護や医療の仕事や学ぶ取組や、これから生まれてくる子や幼児などに関する学習や体験など、年齢や立場が違う相手に接したり援助したりすることに関する学習や経験は、皆さんにとって、机上では得られない有意義な成長の機会だと考えています。今回の保育実習で幼児と触れ合う3年生の姿も、人間本来のやさしさが全面に表出し、たいへん微笑ましいものでした。

3年生の思春期講演会も、本来であれば、何組かの実際のお母さんと赤ちゃんに参加していただく予定でしたが、コロナ禍の影響で今年度も実現できませんでした。しかし、3年生の事後感想を読むと、生命誕生、命の大切さ、性に関する知識等々に深い思いを馳せ、真剣に学習に取り組んでくれたものと受け止めています。

そう言えば、以前、ある保育士さんから興味深い話を聞きました。それは、「この頃の若いお母さんは、子どもを『だっこ』はするけど、『おんぶ』はしなくなった」というのです。なるほど、そう言えば、街中で見かけるのも圧倒的に「前で だっこ」が多いような気がします。確かに、昔は「後ろで おんぶ」が当たり前でした。

それでは、「だっこ」と「おんぶ」の違いとは何なのでしょう？それはお母さん側の利便性だけでなく、赤ちゃんの状態にも大きな違いがでます。一言でいえば、赤ちゃんの『見る景色』です。

「だっこ」は、お母さんが赤ちゃんの顔や様子をずっと見ていられるので、お母さんにとっては至福の時がずっと続きますが、赤ちゃんはお母さんの胸や腕しか見えていません。

その保育士さんの話では、お母さんと赤ちゃんが同じ方向の同じ物を見て、例えば「ブーブーだよ」などと子どもに語りかけながら言葉を覚えさせることが大事で、「きれいだね。可愛いね」といった感情や感性も、同じ景色を見て共感し合うことで育まれていくということです。赤ちゃんの視野を広げ、親子で様々なものを見ることによって「あれは何だろう」と興味をもち、赤ちゃんの好奇心はどんどん広がっていくとのことでした。

私は、これまで全校生徒には折に触れて、人間のもつ五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）を総動員して本質を見ぬく心と眼を養ってほしいと訴えてきました。五感の中でも人間が外部から情報収集に使うのは、視覚が8割だということも言われていますので、それは大人だけでなく赤ちゃんも同じことで、「おんぶ」で赤ちゃんの視野を確保しておくことはとても大切なのですね。

皆さんも様々な場面で、友だちや先生方や家族の皆さんと、いろいろな時間や空間を共有しています。その中で、お互いがしっかり向き合いながら、お互いじっくり話を聞いたり相談にのったりしながら、お互いを見つめ合いながら、心に寄り添う人間関係を築くことが大切なのは言うまでもありません。

一方で、共に並んで、同じ方向の景色を見て、同じ空気を吸って、同じ息吹を感じて、同じ感情を共有して、お互いが同じ気持ちになろうと努力することもまた重要だと気づかされます。

「だっこ」は密着しているようで、実はお腹の辺りに隙間ができる場合も多くあります。「おんぶ」は「だっこ」よりも密着性が高いために、互いの温もりをしっかりと感じることができます。そして、親は自分からは見えないからこそ敏感となり、余計に背中で赤ちゃんの動きや温もりを感じることができます。一方、赤ちゃんはお母さんの心音を聞くことができ、より安心して落ち着いて過ごすことができるということです。

さて、『へたくそ』『バカじゃん』『バカ』『アホ』『死ね』『消えろ』『ちび』『かけー』『障がい』『うわー』『おまえふざけんなよ』『よわー』『クズ』『運動音痴』『どこ』『音がずれてる』。これらの言葉は何だと思えますか。

これらは、毎月実施している『学校生活アンケート』の11・12月実施分で、「あなたが周囲から言われて嫌だったのはどんな言葉ですか？」という問いに対する皆さんから回答のあった言葉です。

このような言葉を、一言で『心ない言葉』と言います。山潟中学校の教育目標は、「人の心を大切に作る生徒」です。それなのに今なおこのような『心ない言葉』が投げかけられていることは、たいへん情けないことだと思います。

私たちは、いつの間にか当たり前のように体は成長し、当たり前のように日本語をしゃべっていますが、生まれてすぐ言葉を発せられるようになったわけではありません。そして、皆さんの親御さんや家族も、そんな醜い言葉を発するために、赤ちゃんの時から皆さんに愛情を注いでかわいがって、手塩にかけて大事に育ててきたのではないはずです。

私たち山潟中学校も、みんなで同じ景色を見ながら、互いの喜びも、悲しみも、うれしさも、つらさも、楽しさも、せつなさも、すべての喜怒哀楽を共有し、温もりのある安心・安全な学校をめざしていきましょう。

新年も、皆さんにとってすばらしい一年になりますことを祈っています。いい年末年始を迎えてください。